

大腸内視鏡検査説明書

大腸について調べるために内視鏡による検査を行います。

- 1 内視鏡検査に使用する機器の適切な選択と検査後の消毒のため、事前にウイルス等の感染症（B型肝炎・C型肝炎・梅毒）を血液検査にて調べさせていただきます。
- 2 検査を行うために、下剤の服用や食事の制限があります。便が残っている場合などは、浣腸や洗腸を追加させて頂くことがあります。
- 3 検査中に何か異状が疑われる場合には、引き続き精密検査を行います。例えば、内視鏡下に安全な色素などを散布し、診断の補助とすることがあります。また、良性・悪性などを診断するための病理検査などの目的で、粘膜組織の一部を採取する（生検）ことがあります。この場合、検査当日は激しい運動や刺激物（アルコール・香辛料など）の摂取を避けてください。また、血が固まるのを防ぐ薬を服用中の方や血が固まりにくい病気の方は、出血が止まらなくなることがありますので、診断・治療など患者様に有用性が高いと判断した場合のみ生検を行います。
- 4 前処置に用いる薬剤などで目がちかちかすることや、ふらつきを生じることもあります。鎮静剤などを使用した場合は、検査終了後、1時間ほど安静にして様子を見てから帰宅して頂きますが、当日のお車の運転は危険ですのでおやめください。
- 5 検査が原因で腹痛などを生じる場合がありますが、経時的に消失します。検査による重篤な合併症として、出血や穿孔などが発生することがあります（全国統計で約0.04%の報告）。重篤な合併症が発生した場合、手術も考慮した精密検査を行い、適切かつ迅速に対処させていただきます。検査終了後に、下血や持続する腹痛などが有りましたら、病院スタッフ（担当医師・看護師）にご連絡ください。
- 6 ポリープなどがあった場合、大きさや形によっては内視鏡的に切除（内視鏡的切除術）出来る場合があります。当日に出来ない場合は、改めて入院予約の上で施行させていただきます。この治療を行った場合には、約10日間は出血や穿孔などの合併症を生じる可能性（切除病変の約0.2%）がありますので、切除当日は食事を制限するとともに、約10日間は旅行・スポーツ・飲酒等をやめて頂く必要があります。万一、切除後に下血や強い腹痛が生じた場合には、輸血や内視鏡手術、外科的手術等を考慮し、迅速に対応させていただきますので、病院スタッフ（担当医師・看護師）にご連絡ください（状況により、本人様の安全を考慮し、救急搬送の案内とさせていただきます）。
- 7 検査当日の状況により、検査予約時間通りに開始・終了出来るとは限らないことをあらかじめご了承ください。